

わたしと ポローニャ



Wei Hsuan

ウェイシュエン

約10年前、故郷の台北でポローニャ絵本原画展の巡回展を見たことがありました。当時は、ただイラストが好きな出版社の編集者で、創作したいという気持ちがうずうずしていました。

その後、私は会社を辞めて日本にワーキングホリデーで1年間滞在することにしました。東京に滞在中、板橋区に住んでいる友人の家に泊まっていた時に、ググルマップでいたばしポローニャ子ども絵本館を見つけて訪れ、多くの美しい絵本を見ることができました。そして、板橋区とポローニャが姉妹都市であることを初めて知りました！

ワーキングホリデーの半年後、東京でイラストを学び、就職し、退職してフリーランスのイラストレーターになりましたが、気がつけば日本に7年も住んでいました。

東京のイラスト学校に留学していた時、ポローニャ絵本原画展に応募しましたが、当時は絵を習い始めたばかりで当然落選しました。

2020年から2022年にかけて世界はパンデミックに見舞われ、ちょうどその頃に仕事を辞めていて、ほとんどイラストの仕事の機会がありませんでしたが、その分、創作や自己探求の時間がたくさん確保できました。この期間に描き溜めた作品をポローニャ絵本原画展に応募し、幸運にも2021年と2023年に選ばれ、私にとって大きな励みになりました。絵本作りをもっと頑張ろうと思えるようになりました。

絵本を作ること、特に物語を語ることはとても難しいと感じていたため、自分の絵本を完成させることができずにいました。しかし昨年、愛犬が亡くなり、愛犬との物語をどうしても絵本にしたいと思い、イタリア・ポローニャ現地のブックフェアでみんなに見せることを目指しました。最終的には絵本のダミーを完成させただけでしたが、それは私が初めて「完成した絵本」を描き上げた瞬間でした。

ほぼ同期間に、編集者からの依頼を受け、作者シャハニさんの文章にイラストを描いて、いよいよ絵本を出版することになりました。その絵本の内容は偶然にもシャハニさんが愛犬への想いを書いたもので、私は大変嬉しくて驚きました！シャハニさんに尋ねたら、彼女は2021年のポローニャ絵本原画展で私の入選作『世界の道ばた動物図鑑』を見て、私に絵本のイラストを依頼したきっかけがわかりました。このようなご縁に深く感謝するとともに、ポローニャ絵本原画展がシャハニさんと私をつないでくれたことにも感謝しています。この絵本「ポポとかなえたいこと」は2024年11月に出版される予定で、皆さんにもぜひ手に取って見ていただければと思います。